**イエス・キリストの気高い人格**

2010年12月24日

クリスマス・イブを祝う集い

スワーミー・メダサーナンダによる講話

於・逗子協会

　イエス・キリストが生まれたのは二千年以上も前のことです。イエスは大工の息子だったわけですが、世界にはこれまで大工や大工の息子は数多く存在したのに、人々の記憶に残り尊敬を集める大工は他にいません。これは、イエスの資質に特別な何かが、人々に彼を信仰したいと感じさせる何かがあったからに違いありません。だからこそ悠久の時を超えイエスはこの世界で語り継がれているのです。このようにイエスが永遠不滅であるのは、彼に備わっていた霊的資質、神なる性質です。彼の中には、神様の特別な力が現れていました。イエスは、神の御力により人類を導き、人類に平和への道、霊性の光へと辿り着く道を指し示す運命だったのです。だから、世界中の人が彼を礼拝し、彼の誕生日を祝います。心の平安と悟りとを求め、大変多くの人がイエス・キリストに帰依しています。

　私たちのラーマクリシュナ僧団はイエスと特別な結びつきがあります。まず、私たちの宗派の創始者であるシュリー・ラーマクリシュナは、宗教の調和を信じていました。ラーマクリシュナはヒンドゥー教の修行僧でしたが、イスラム教とキリスト教の道も自ら実践し、ムハンマドとイエスのビジョンを得たのです。イエスが現れた時、イエスはラーマクリシュナの体の中に溶け込み融合したのです。ですから私たちの本部や各支部では毎年クリスマス・イブをお祝いします。さらに、これは偶然のことなのですが、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダやスワーミー・ブラマーナンダを始めとするシュリー・ラーマクリシュナの弟子の僧らが、修道士として生涯を過ごすと誓いを立てたのもクリスマス・イブでした。後に、自分たちが厳粛な誓いを立てた日が僧にふさわしい日であったことを知り、彼らは大変喜びました。

**隠された本当の意味**

　イエスの『山上の説教』は非常に有名ですが、これはイエスが弟子らに霊的アドバイスをしたものです。今日は、この中の次の教えについて考えてみたいと思います。「心の清い人々は、幸いで ある。その人たちは神を見る。（Blessed are the pure at heart, forthey shall see God.）」「幸いである」を意味する英語の「blessed」という言葉は、辞書で見ると「幸運である」という意味が出ていますが、これには「grace」すなわち「恩寵」を受けている、というニュアンスがあります。ここに、重要な概念があるのです。この言葉に隠された考えについてもう少し詳しく見てみましょう。

　この「幸いである」の他、「その人たち」、「心の清さ」、「神を見る」という語句についても、順に見ていきましょう。イエスのこの教えで、「その人たち」とは神を信仰している人々、神を愛し神を礼拝している人々、神を見、神を悟りたいと願う人たちを指しています。

　では、神とは何でしょう。神とは絶対の実在であり遍在です。すべてを知っておりすべてが見える、全知全能の存在です。創造、維持、破壊を行い、永遠無限な純粋意識です。神は魂すなわち自己という形で私たち一人一人の中に住んでいます。あらゆる生き物の中にも物の中にも住んでいます。

**神を見たい人は誰か**

　さて、「心の清い人々は、幸いである。その人たちは神を見る」というわけですが、なぜ信者は神を見たいと思うのでしょうか。なぜ神を悟りたいのでしょうか。神様が大好きで神様への大きな愛から神を見たいと思う人もいます。必要だからとか、欲しいものや祈りたいことがあるからとかではなく、彼らはただ愛のために神を愛しているのです。また、困難を乗り越えたい、喜びや平安を得たいと考える人たちもいます。無知から解放され叡智を得たい、死を超越して永遠不滅となりたい、そして束縛から解放され自由を得たいと考える人たちです。神を見、神を悟ることで、人は永遠の喜びを得ることができます。叡智を得、永遠不滅となり自由になれるのです。信者はこうした大きな経験を得るために神を見たいと考えるのです。

　神を悟るのはよくある自然なことなのでしょうか。それとも特別なことでしょうか。ご存知の通り、神を見たいと思う人はたくさんいますが、本当に見られる人はごくわずかです。神の悟りを得られるのはどんな人なのでしょうか。イエスは「心の清い人」であると言いました。ハートの清らかさと心の清らかさは同じ意味です。つまり、神様は私たちのごく近くにいらっしゃる、私たちの中にも外にもいる遍在の存在でいらっしゃるのに、私たちに神様が見えないのは、心やハートが純粋でないからなのです。神を見るための条件とは、純粋であることなのです。

**純粋であるとは何か**

　「純粋」とはどんな意味でしょうか。純粋な水と言えば、汚れやばい菌、バクテリアなどの入っていない水のことであり、これをきれいな水、純水と呼びます。同様に、純粋な心とは汚れのない心のことです。心の汚れとは何でしょうか。驕り、怒り、欲、妄想などです。これらが心の汚れと言われるのは、心に傷ができて周りがきちんと見えなくなってしまうからです。めがねが汚れているとよく見えないでしょう。水が汚れていたら健康に害を与えます。同様に、心の汚れは私たちの霊的健康の害となるのです。適切に考え、行動し、感情を持つことができなくなってしまうのです。ですから、私たちは心を浄めて心を純粋にしなければなりません。

　科学者は脳の働きとの関わりが大きいですが、信者は心の働きにより大きな関心があります。霊的な人は、怒りや欲望などの心の汚れをコントロールします。これらの汚れの原因は小さな「私」です。有限の「私」、束縛された「私」、利己的な「私」、時間と空間に支配され肉体と心にばかり目を向ける「私」。このような「私」は、私、私の家族、私の友人、私の大切なものに縛られています。この「私」が、痛みや苦しみ、恐れ、不安、いらだちを生むのです。

　特に、こうした不純な汚れは、私たちの中にいらっしゃる神様のビジョンを得る妨げとなります。ですから、私たちはこの誤った考え、小さい自己であるという考えを取り除く必要があります。小さな「私」を超越し、小さな「私」を大きな「私」と入れ替えるのです。有限の「私」を無限の「私」と、無知な「私」を叡智ある「私」と、束縛された「私」を自由な「私」と、利己的な「私」を利己心のない「私」と入れ替えるのです。そうして初めて、私たちは汚れがなくなり浄らかで純粋な心を持つことができるのです。

**純粋になる**

　水をきれいにしたり眼鏡や部屋を掃除したりするのは簡単です。物理的にきれいになるのはたやすいことです。しかし、心を浄めることははるかに難しく、長期間にわたって努力を続ける必要があります。これは霊的格闘と呼んでもいいでしょう。心の汚れは何重にも実に分厚くこびりついていますから。肉体や心を中心にした私たちの発想は、奥深くまで根付いてしまっているのです。

　心の清い人たちは本当に運がいいと言えます。幸運とは通常偶然に何かを得ることを指します。つまり、幸運とは努力の届かない領域にあるのです。では、心の清らかさとは偶然得られるものなのでしょうか。ある意味ではそうだと言えます。ご存知の通り、シュリー・ラーマクリシュナの弟子の修道僧らは幼い頃から大変純粋な心を持っていました。しかしこれは、前世で奮闘努力し純粋さを獲得したからなのです。だから彼らは生まれた時から純粋だったのです。

**努力**

　しかし、大半の人は長い間努力し続けて初めてそのような純粋さを得ることができます。少し頑張っただけで純粋になることもありますが、その後で何らかの問題が起きると再び堕落します。ですから、私たちは長い長い間努力を続けて、驕り、怒り、欲望、妄想などと格闘しなければなりません。心の純粋さだけでなく、肉体の清らかさ、生命力、感覚の純粋さも必要です。これらはすべて相関しているのです。

　では、この努力とは何をすればいいのでしょうか。肉体、感覚、心をコントロールし、良いことをして悪いことをしないようにするのです。イエスは、善行を実践する具体的で役に立つ方法をたくさん述べています。東に向かって進めば西から遠ざかるように、前向きなことをより多く行えば、否定的なこと、害になるようなことはやらなくなるものです。イエスはこう言っています。「義に飢え渇く人々は幸いである、その人たちは満たされる。」努力とは、正しい生き方、道徳的な生き方を求めて行う努力のことです。

　イエスはまたこうも言っています。「心の貧しい人は幸いである、天の国はその人たちのものである。」「柔和な人たちは幸いである、その人たちは血を受け継ぐ。」このように、謙虚さ、利己心のない行為を実践すればよいのです。イエスは繰り返し、利己心や怒り、妬みには愛、思いやり、許しを実践して対抗するように言っています。「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。」「憐れみ深い人々は幸いである、その人たちは憐れみを受ける。」なども有名な言葉です。人を許せば天の父はあなたを許して下さるのです。「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」ムハンマドもコーランの中で同様のことを言っています。シュリー・サーラダー・デーヴィーは言いました。「息子よ、自分を傷つけた人を罰するよう神様にお願いしてはいけません。むしろ、その人を許して下さいとお願いしなさい。その人のために祈るのはもっといいことです。」

**純粋であること、神に委ねること、完全であること**

　イエスは、世俗的なものを願う代わりに霊的なことを願うようアドバイスしました。物質的財産を求めるのではなく霊的財産を求めなければなりません。「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。」つまり、これらは永遠の資質となることを意味しています。

　大切なのは、心の清らかさを求めて努力している時に、私たちの中に潜む不純な傾向を引き出すものを避けることです。霊的に純粋になろうと頑張りながら、同時に感覚的な楽しみに耽ることはできません。そんなことをすれば、霊的な努力は無駄に終わってしまいます。これについてイエスはこのように言っています。「わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。」

　このような心の清らかさは、神への深い信仰を持ち神にすべてを委ねることなしには決して得られません。すべてを神様にお任せしましょう。イエスは言っています。「御心が行われますように、天におけるように地上にも。」

**完全であることが私たちの本性**

　純粋を求めるこの努力が、最後には完全さを求める努力へと私たちを駆り立てます。これが人間の一生のゴールです。もちろん、完全になった時私たちは神を悟ります。完全さを求めるこの格闘において誰を理想とすればいいのでしょうか。神です。神様がこの格闘における私たちの理想です。イエスは言います。「だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」私たちの本性はまさに完全です。ですから、私たちは完全にならなければなりません。教会の人たちは私たちの中にある罪についてよく語りますが、これは興味深いことです。聖書の中でイエスは、私たちが皆罪を持って生まれる、つまり罪人であるとは一度も言っていないのです。むしろ、イエスは神の国は私たちの中にあると言っています。

　同じように、ヴェーダーンタは、私たちの本性は純粋であると言っています。私たちの心の汚れは、投影されているだけです。汚れを取り除けば私たちの本性である完全性が輝き出すのです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが、人を罪人と呼ぶことが罪であると言ったのはこういう理由からです。さあ、今日はクリスマス・イブですから、私たちの心が清らかになり私たちが完全になるよう祈りましょう。イエスは完全でしたし、神は完全です。私たちの本性も純粋で完全なのです。私たちの心が清らかになり私たちが完全になれば、私たちは神の悟りに恵まれ、幸いとなるでしょう。